

日中友好新聞

京都府連版

第335号

日中友好協会京都府連合会

〒602-8026 京都市上京区新町通丸太町上ル
TEL&FAX 075-256-2764 nichukyoto.com機関紙会館ビル302号
info@nichukyoto.gr.jp全国大会まで十日、府連大会まで一か月、日中に
仲間をたくさん迎えよう！ 斎藤 敏康 理事長

仲間づくり推進期間がスタートして三か月が過ぎました。五月十日の協会会長・理事長・事務局長連名の呼びかけ文は、アメリカが狙う政治的軍事的な中国包囲網の強化に日本が加担することは東アジアの緊張を一層高め、日本を戦争へと導く道であることを厳しく指摘しています。いたずらな「中国脅威論」を鼓吹するのではなく日中の話し合いによる緊張緩和こそがいま求められている課題であり、協会が市民運動の立場から日中のノーマルな関係構築のために日本の世論を変えるような大きな声を上げる必要があります。大きな仲間づくり運動が求められる所以です。

全国各地の支部・連合会で積極的な奮闘が続いています。しかし数字で確認できる客観的な到達点を見ると現状はまだ、全国で1000人を拡大するという目標に届いていないばかりか、七一回大会比からさらに50人も後退しています。後退を食い止め、現状を維持することすら難しいという状況です。

京都府連合会では四〜五月の間に、会員三人減、準会員一人増(5/28現在)という後退状況で、まだ本格的な会員増に転じる機運を作り出せていません。会員の皆さんが身近な知人友人に府連を語り入会を呼びかけていただくようお願いしたいと思います。

正会員が難しければ、準会員(読者)でももちろん結構です。またとりあえず半年・一年会員・準会員になってもいい、その間に協会・府連の面白さを体験してもらってもいいかと思えます。

また入会は遠慮するが、協会に頑張ってもらいたいのでカンパをするという人もおられます。年間会員・準会員相当額の(大口)カンパを頂ける仲間を増やすことも大切です。

私たち府連の目標は三十人ですが、今のままでは全く画餅に帰することが強く懸念されます。

皆さんの奮闘を切にお願いいたします。

京鹿鎮
花袖鹿

第70回日中友好協会京都府連大会

★日時：6月23日(日) 14:00~17:00 (府連大会)

(13:30~14:00 理事会です。府連大会終了後、懇親会もあります)

★会場：機関紙会館5階 ※オンライン参加もできます。

府連大会は、全会員に出席を求める「会員大会」です。委任状を含め、会員の過半数の出席をもって成立します。準会員は参加し発言する権利がありますが、議決権はありません。議案は、日中友好新聞6月15日号と
いっしょにお届けします。



第一回「長谷川テル訪問記念の碑」碑前祭によせて 「碑文」揮毫者 井口和子（湖山）

「長谷川テル訪問記念碑」除幕式がおこなわれたのが、二〇二三年四月三〇日、般若寺境内だった。この時、長谷川暁子さんともお会いすることができた。あれから、早や一年経った。

一九三二年四月三〇日、テルさんと学友長戸恭さんは般若寺を訪れ、「抑圧的、閉塞的な社会のありようと闘おう」と誓い合い、反戦平和のたたかいははじめ、エスペラントを学び、社会運動と繋がり、治安維持法に触れるとされ、奈良高等師範学校から退学させられた。

二〇一七年五月二六日、顕彰の会が結成され、六年がかりで碑建立、全国の長谷川テルに想いを寄せた方々のご協力、ご支援と般若寺様のご好意で完成したものである。その碑文を書かせていただいた私は、コロナに罹った直後で筆を持つのも苦労した記憶がある。そして一年後、第一回「長谷川テル訪問記念の碑」碑前祭開催。折しも境内は山吹が咲き誇っていた。

奈良蟻の会合唱団が「希望の鳩ヴェルダ・マヨヨ長谷川テルの歌」を合唱。「山吹燃ゆる」と命名された碑の前で、工藤良任住職が「ヤマブキの寺」と呼ばれた由来を語り、全員で献花した。

この一年を振り返って、京都でいろんな機会に話したり、作品化したもので、主だったものをあげておく。



書作品では、国際蘭亭筆会書法展／二〇二三、京都教職員美術展、新美二〇二四公募展、日本コリア友好美術展、民医連中央病院友の会文化のつどいなど、「山吹燃ゆる」のことは生かし自作の文章でまとめ作品にした。話す機会や原稿では、京都中京母親大会、京都子どもを守る会、民医連、京都中・右京健康友の会、新婦人、日朝協会、日中友好協会、京都の民主運動史を語る会「燎原」婦人民主クラブ、中国瀋陽東北大学など。とくに昨年末、コロナ後四年ぶりで訪中した際、ジャムスの長谷川テル夫妻のお墓を訪問したいと思っていたのに、寒波と大雪で瀋陽の東北大学とホテルの往復しかできなかった。

中塚明先生は、昨年（二〇二三年）一〇月二九日逝去された。先生と長谷川暁子さんが手を取り合っ
て再会を喜ばれていた姿が目につぶ。
京都では、奈良を訪問しようとの話題も出始めており、長谷川テルのこと、碑のことがより多くの人々に知られ、関心を持たれるよう強く望んでいる。最近の状況下、長谷川テル顕彰事業の意義は、ますます重要となっている。この事業がさらに発展するよう、ともに力を合わせよう。平和といのちを守るために！
（二〇二四年四月二四日 記）

（注）長谷川テル（1912-1947）は、戦争中、中国で反戦運動をした日本人女性ですが、奈良女高師（今の奈良女子大）に在学中、同級生の長戸恭と般若寺を訪れました。山吹の花は、そのときの長戸恭の思い出に依拠しています。

長谷川さんと私のはつきり方針をきめたのは四年生になった春（昭和七年）四月三十日の事でした。私は今でもその日のことははっきり覚えていますが。雨上がりの土曜日の午後でした。散歩にいこうと手を挙げて廊下から合図をする彼女に私も同じく手をあげて答えました。あれはた般若寺の境内はひっそりしていました。八重桜のぼたぼたした花と山吹の真黄色なしげみの中で、私たちは一しよにやろうと誓いました。

長戸恭「奈良の日々」（利根光一『増補版テルの生涯』要文社、一九八〇年より）

そのあと、二人は、労農運動の事務所を訪ねたり、プロレタリア文学の話の聴いたり、エスペラントを始めたりと行動を開始しましたが、治安維持法違反容疑で逮捕され、奈良女高師を追われました。（西田千津）

中国の山旅(18) 西谷仁

中国に行つて来ました。日中の関係悪化で中国のビザを取る事は出来ませんでした。その代り香港からの特別滞在ビザで五日間のみ深圳だけ訪問する事が出来ました。深圳は数年前に訪れた時と比べ更に大きく発展して香港をしのぐ大都市になっていました。更に驚いたのは六十才以上は地下鉄、遊園地、動物園、ショーがすべて無料な事です。物価も香港の半分程度なので五日間ホテルと食費以外お金を使う事はありませんでした。



残念な事に英語を話す人がほとんどいなく、日本で使っているLINEやグーグルマップも使えませんでした。でも人は中国語で親しく話しかけてくれるので筆談でコミュニケーションは取れました。町は高層ビルが林立し、道路は広く、そこを四や電動自転車(外観はオートバイですが電動自転車なので広い歩道を自由に走っています)が一杯走っています。虫さされになつたので大きな病院に行きましたが、保険証はなくても医療費は日本の何分の一の安さでした。日本人の観光客は全く見あたらず、たまに韓国人の観光客を見ました。三十年前は三万人程の村が今は200万人の大都市です。街は木々がおいしげり、花も一杯植えられ道路は十車線位で日本とは大違いです。日本は三十年間何もせず中国やその他の国においぬかれていくのを目にして、日本の政治の貧困を感じました。人々はやさしく、電車ではすぐに席を立って老人を座らせてくれます。日本人よりはるかに民度は高いと思います。これで中国の旅の報告は終わらせてもらいます。



《中国伝統劇つれづれ》第十三回 文戯と武戯

藤野 真子

初めて中国伝統劇に触れたのは一九八〇年代後半、地元・神戸での上海京劇院の若手公演だった。武旦の史敏（のち史依宏に改名）、丑の嚴慶谷、武生の張帆（名武生・蓋叫天の孫）といった顔ぶれがまだ十代だった頃で、演目の多くが武戯（立ち回り中心の劇）だったと記憶している。そもそも、『長生殿』のような著名な物語を除き、中国語、こと伝統劇独自の発音や言い回しを聴き取れない日本の観客に文戯（歌唱中心の劇）を理解させるのは難しい。加えて、梅蘭芳が最後に来日した一九五〇年代に比べると、本邦では中国演劇に対する興味も知見も薄れ、文戯の妙味を愉しめる人間も少なくなった。近年持つてくる演目が、『西遊記』や『三国演義』の中の武戯に偏っているのも致し方ない。

とはいえ、中国伝統劇を専門としていても、文戯と武戯とどちらが退屈しないかと問われれば、正直に「武戯」だと答えざるを得ない。文戯の場合、現地では多くの劇場で歌詞が字幕に示されるので、多少見栄を張って言うとおおよそ何が書かれているのかは理解できる（本当はそんなものを見ずとも、メジャーな演目ならすべての歌詞が頭に入っただけしかるべきであろうが）。ただ、字幕を読むことに集中してしまうと、どうしても演技への集中が途切れてしまう。その点、一人あるいは複数人で武術の型を見せたり、武器を持って斬り合ったりといった身

体による表現を「言語」とする武戯であれば、動線の美しさや超人的テクニックをシンプルに楽しむことができる。

上海京劇院の若手俳優たちによる、スピーディでのびやかな身のこなしや、アクロバティックな立ち回りに、当時の筆者が非常に感銘を受けたのは間違いない。わりあい前の方の座席だったことも興奮に拍車をかけ、終演後も余韻に浸っていたことを覚えている。ただ、本エッセイの第一回に書いたように、この観劇経験が、伝統劇研究を志すきっかけとなったわけではない。あくまで、中国文化に関わる一つの経験として完結している。思い返すに、その複雑な味わいを堪能するには、中国語力の向上や中国文化への知識の獲得と同時に、中国において伝統劇が置かれてきた社会的・時代的背景への理解が不可欠だったのだろう。

実際、崑曲のように高度な文辞で綴られた文戯を観るときは、自身のレセプターをいっぱい使って内容の理解に努める。終演後、疲労感を覚えることもあるが、その感覚は心地よい。



史敏主演の『火鳳凰』
ビデオ CD

（ふじの なおこ・関西学院大学教授）

第五十六回学習・交流会の報告(5/16)

文化大革命の国際的背景として、ベトナム戦争を中心に報告する。ジュネーブ協定（一九五四年）以降、一九六〇年十二月には南ベトナム民族解放戦線が結成され、ゴ・ジン・ジエム政権に対する武力闘争が強化された。

アメリカは一九六四年八月、トンキン湾事件（謀略）を口実に、一九六五年に大規模な北爆を開始。ソ連のコスイギン首相は、中国に北ベトナムへの軍事援助の協力を求めた。

同年六月から中国軍は北ベトナムに「中国後勤部隊」の派兵を始めた。一九七〇年までに延べ三二万人、最大時で年十七万人が北ベトナムに派兵され、防空作戦や防御施設・道路・鉄道などの修築に従事した。その後一九七二年から七三年にかけ、中国軍は海上封鎖に対抗した北ベトナム軍の水雷除去作戦も援助しており、一連の軍事協力を通じ二〇人以上の死者と五〇〇人の負傷者を出した。

米ソと同時に武力対立に陥る危険性を、当時の中国共産党指導部は真剣に憂慮していた。毛沢東の心中には、中国共産党の内外にいる「資本主義への道を歩む修正主義者」を打倒しなければならないという文化大革命期の論理が醸成されつつあった。

（田中康男）

次回は六月二十日（木）

午後一時半、府連事務所。

テキストの152頁、「文化

大革命の展開過程」から始

めます。どなたでもお気軽

にご参加ください。



景徳鎮の猫

コロナ禍の台湾研究活動道中記（第26回） ビザ切り替え手続き（その4）

高橋 孝治

前回まで、新型コロナウイルス感染症対策により、台湾で隔離され、台湾内で取得しなければならぬ居留ビザの取得も大幅に遅れ、それが原因で外国人登録証が作成できず、そのため銀行口座が作れないため、台湾政府招聘の研究員であるにもかかわらず、報酬も受け取れなくなったという話をしました。

そして、居留ビザ取得のための健康診断の予約をしてから約一か月が経ち、ついに健康診断の日がやってきました。筆者の日記によると、これは二〇二二年五月三日のことです。台湾に入境したのが同年三月十八日、自宅隔離も解除になったのが同年四月五日、健康診断の予約をしたのが四月七日ですから随分と待たされたことになりました。

ところで、健康診断は、朝一番の時間での予約となっていました。万が一にも寝過ぎたり遅刻したら、また予約の取り直しで一か月待たされる可能性もあります。そのため、前日は筆者としてはかなり早い時間に寝て準備していました。

そのお陰もあってか遅刻することもなく病院に行き、身長、体重、視力、聴力、血液検査、レントゲンなどの検査を行い、つつがなくビザ用の健康診断は終了しました。そして、「結果を、五月三十一日に取りに来てください」と言われました。まさかの健康診断をしてからその結果を受け取るまでにも

また約一か月かかるというのです。筆者はもう少し早くできないかと聞きましたが、できないとのこと、仕方なく五月三十一日に健康診断結果を受け取ることに承諾をしました。

それからの生活は、まだ研究員としての報酬が受け取れないので、質素なものでした。受け入れてくれている大学に行ったり、台湾の国立図書館に行ったり、下宿で論文を書いたりなどをして約一か月まて経過しました。

そして、五月三十一日になり、朝一番でまた病院に行きました。そうして、念願のビザ用健康診断結果を手に入れ、その足でそのままビザセンターに向かいました。（続く）



行った寺の隣に健康診断の病院が真ん中あたりにあり、その隣に今年4月の健康診断の写真を掲載した写真が貼られていた。寺の隣に健康診断の病院が真ん中あたりにあり、その隣に今年4月の健康診断の写真を掲載した写真が貼られていた。寺の隣に健康診断の病院が真ん中あたりにあり、その隣に今年4月の健康診断の写真を掲載した写真が貼られていた。

淡江大学 日本政経研究所 訪問研究員（2022年）／
「高橋孝治 中国」でウェブを検索し

中国百科検定試験—私の攻略法— 斎藤 敏康

中国百科検定が始まったときに入門を受けた。それ以降は何やかや屁理屈をつけて受験しなかったが、心のしなやかさを保つには学ぶこと（頭の体操）が一番と悟る所があつて、また百科検定に戻ることにした。一昨年3級、昨年は2級を受け、今年は1級にチャレンジしようと思う。

私の受験対策はいたってシンプルだ。手許には協会の編集になる『中国百科検定問題集』一冊だけ。第1部・地理、第2部・政治経済、第3部・歴史、第4部・文化芸術風俗習慣の四部の下に世界遺産、政治と法、近現代史、食文化など15項目が置かれ、項目ごとに三級、二級、一級の問題がそれぞれ15問ずつ並ぶ。例えば三級（ものしりコース）なら一項目に15問、13項目で合わせて195問の問題が出題されている。195問は結構大変だと思う人もおられると思うが、実際の検定試験は、ほぼ（たぶん80%）はこの195問から8問が出題される。だから195問の回答を覚えてしまえばまず合格は確実である。

私の場合は、最初一通り195問をやってみて、出来た問いとできなかった問いを確認する。次にもう一度195問を回答し、2回目もできなかった問題を確認する。これで大体195問の回答を頭に入れられる。これだけでも合格の可能性はかなり高いと思うが、これでは一夜漬けの受験勉強と同じで味気ない。

そこで私は、一問四択の選択肢を調べる。例えば「梁山泊をアジトとした108人の豪傑の物語は？」という問いの下に①『拍案驚奇』②『金瓶梅』③『水

「水滸伝」④『儒林外史』の四つの選択肢が並んでいる。答えは③『水滸伝』だと見当はつくが、『拍案驚奇』や『儒林外史』はどんな書物だろうかと調べるのだ。インターネットですぐに調べられる。これをやると知識の幅が相当広がるだけでなく、出題者の意図、狙いのようなものが見えてきて楽しい。さらに言うこと、問題」として筋がいいかそうでないかも判じることが出来る場合があつて、これも楽しい。よい問題は出題者の意図が明確に通つていて、美しい。

検定で得た個々の知識が、より広い分野や範疇の中でどういう位置を占めるのかを理解することは非常に大切であり、それには分野別の概説書を読む必要がある。例えば「三国時代の魏から隋唐にかけて行われた官吏登用制度」が「科挙」であるとかわかつて、科挙の歴史的意義を理解するためには中国の官僚制度や官吏登用制度の歴史を知らなければならぬ。概説書を何冊も読むのはどうもという人には、とりあえず『増補改訂版 中国百科』をお勧めしたい。試験問題に対応した四部十三項目についてより詳しい説明がなされていてまとまった知識の整理にも、また検定対策としても役に立つと思われる。

次回、百科検定沙龍(サロン)は、六月十五日(土) 12:30~14:00日中京都府連合会事務所

書呆子 (中国語で「本の虫」という意味)

「流浪地球」劉 慈欣著、大森 望・古市 雅子訳、

角川文庫、文庫版二〇二四年一月二十五日刊、305P

劉氏の二冊目を読了。第五四回星雲賞受賞の短編六編。表の帯：日本小説家陣強力推薦とあります。

筒井康隆・石田衣良・恩田陸・小川哲さんと続きます。

訳者あとがき(大森望さん)1、今から四百年後、太陽が大爆発を起こし地球は滅亡する。……そんな予測が発表される。生き延びるには太陽系を脱出するしかない。だが、人類全員を乗せられるだけの宇宙船を建造することは不可能。そこで人類は、一萬基以上の巨大な地球エンジンを地上に建設し、地球そのものを宇宙船として、はるか4・3光年の彼方へ旅立つことを決意する……。2、マイクロ紀元…宇宙に新天地を探し求める旅に出た主人公が、変わり果てた地球に帰還する物語。3、吞食者…恐竜のような姿をした食欲旺盛な侵略者が太陽系に飛来し、地球文明が家畜化の危機に晒される。4、呪い5・0・現代の太原市を舞台にコンピュータ・ウイルスが猛威をふるうドタバタ破壊的コメディ。5、中国太陽…希望に満ちた宇宙開発の夢が高らかに謳いあげられる。6、山…大海原に突如出現した高度一萬メートルの山のでつぺんで元アルピニストが思いがけない遭遇を果たす。この「流浪地球」が宇宙編なら「老神介護」は地球編というところだろうか。とあります。次は「老神介護」の推薦をしたい!

池澤夏樹氏の書評の引用(二〇二二年十月八日、毎日新聞) 劉慈欣は技が大きい。柔道で言えば、大外刈り、一本背負い、巴投げなどを次々に繰り出す。決して寝技に持ち込まない。……「流浪地球」で描かれる世界規模の危機に対し人類はどうふるまうか。今に重ねれば事態は温暖化に似ている。当然ながら理と利に沿って議論百出。首脳部が立てた方針に民衆は反発する。この構図どこか懐かしい。当初のアメリカの巨人たち、R・ハインラインやI・アシモフ、A・Cクラックに似ているのだ。科学と文明が出会うときに何が起こるか、そういう問いを未来に投射する。つまり劉慈欣は今の王道を行っているのだ。

京都市会代表団として台南市に訪問して学んだこと

京都市会議員 とがし豊

京都市会の代表団として台湾・台南市へ訪問したのは今年の二月二三日〜二五日。冬とはいえ最高気温は29℃という暑さ。日本の植民地支配時代より残存する都市計画により、通りに面する建物の一階部分には通路の設置が義務付けられているため、統一感のある独特の景観が形成され、その通路は「庇」のごとく、昼間の強い陽射しから歩行者を守ってくれる。第二次世界大戦末期の砲撃跡を保存し観光資源にしたり、植民地時代の警察署を美術館にしたり、旧農業試験場跡を文化・交流施設として活用したり、重層的に歴史を楽しめる仕掛けが各地に。この二十一年間で、ヨーロッパの文化財保護政策を取り入れ、「古跡」(日本でいう重要文化財)指定により積極的に旧跡を保存・復元する試みが普及し、ますます台湾のまちな魅力が増してきています。

また、台南市議会のトップは女性であり、議員の半分以上が女性。また、旅行同業組合でも重要ポストを女性が占め、意見交換でも女性がのびのび発言。ジェンダー平等が地方議会にも、経済界にもしっかりと根付いていました。

今回、日中友好協会において台南訪問の報告をさせていただく機会をいただいたこと、心から感謝申し上げます。

※五月十二日にお話いただきました。



台南市議と懇談する
とがし市議

愛ちゃん電気消して

四月の終わりに友人と一緒に重慶に行ってきました。向こうの友人に歓待していただき、思い出深い旅になりましたが、準備から帰国まで結構たいへんな旅でもありました。

日本人はノービザだった中国旅行は、コロナ以降、ビザが必要になりました。ネットを見ても、ビザを取るのに何時間も待ち続けたという体験談が載っていますし、オンライン決済が発達して現金が使えないという噂もききます。「中国変わったな〜」でも、中国行きたい。そんな忸怩たる思いでいるとき、石橋美紀さんの上海、蘇州、杭州の旅の府連版の記事を読み、「行く気になれば行ける！」と勇気づけられました。

しかし、コロナの間にパスポートも切れていましたし、「まずパスポート更新してこようかな〜」でも、仕事休むのややこしいな〜と、やはり一歩が踏み出せずにダラダラしていました。そのうち春節になり、重慶の友人の趙德智さんが、微信(中国のLINE)に「春節おめでとう」動画を送ってくれ、「ご家族と重慶に遊びに来てください」とメッセージをくださりました。そこで、「四月末ぐらい行きたいです」と返信してみたら、「歓迎します」と大喜びの返信があったので、これは絶対行かなくては!と私も感激し、行動を開始しました。

この趙さんとの出会いは、昨年四月三十日の長谷川テル記念碑除幕式でした。趙さんはエスペランチ

ストで、お連れ合いとお姉さんと三人で除幕式に駆けつけてくれました。私は、奈良で趙さん一行を案内し、その時は、中国旅行はすぐノービザになるような気がして、「次は私たちが重慶に行く」と、趙さんと約束していたんです。それで、今回、いざ行くとなると、趙さんは、みんな来てほしいとい、私は、みなさんに連絡とつた結果、急な話にもかかわらず、奈良エスペラント会の竹森さんが参加されることになりました。そのほか、私の友人の岩田朝子さんも一緒に来てくれることになりました。そして、苦勞の末、三人とも、奇跡のように(笑)観光ビザをとることができホッとしました。

いろいろと忘れられない事件はありましたが、そのひとつを書きます。私たちの泊まったホテルは街の中心部で、一泊四千円ぐらい。安いのに新しく清潔で、バスタブまでついていました。ですが、新しすぎて、電気をつけたり消したりは、AIの愛ちゃんに「小愛同学关灯(あいちゃん、電気消して)」と中国語で頼まないといけないんです。

この愛ちゃん、最初は、問題なかったのですが、夜中にトイレ行こうと電気をつけたとき、消そうとして呼びかけても、私の発音が悪いのか、ガン無視! 電気は一晚中つけっぱなしという結果になりました。私は、悔しくて、岩田さんを起こさないように小声で何回も何回も発音練習し、「小愛同学」と呼びかけ続けたのですが、だめでした。とりあえず寝て、夜が明けてからもう一回言ってみたら、「在(います)」と返事してくれ、感動しました。その後は、私の発音に慣れたのか、いつも返事してくれました。ただ、私は、「灯」の声調を間違えて覚えていて、「わかり

ません。普通話を話してください」と愛ちゃんに怒られ、辞書で調べ直して、三声ではなく一声だとわかりました。勉強になりました。



この写真は、解放碑の前で撮ってもらったものです(左端が趙さん)。そのほか、戦時中の重慶爆撃の被害者とお会いできたり、長谷川テルゆかりの場所も連れて行ってもらいました。そんな話を、機会があれば少しずつ掲載させていたきたいと思っています。また、六月十六日(日)に、宇治支部で、重慶旅行のお話をしますので、よかったらご参加ください。オンライン参加もできます。(八頁みてください)

今後の予定

- ・6/5 (水) 13:30~15:30 高齢者大学 キム・スヒョン「韓国映画産業と文化政策」長浜バイオ大京都 C
- ・6/8、6/9 全国大会
- ・6/15(土)12:30~14:00 百科検定沙龍
- ・6/16(日) 10:00~12:00 宇治支部 西田千津「重慶旅行の話」
- ・6/20 (木) 13:30~学習・交流会
- ・6/23 (日) 14:00~16:00 京都府連大会 機関紙会館
- ・6/29 (土) 13:30~16:30 左京支部・ことばの学び舎「日本語学校の今」宮崎いずみ ハートピア京都
- ・7/29~8/3 平和のための京都の戦争展 立命大平和ミュージアム

日中友好協会京都宇治支部企画

中国・重慶訪問報告 ～重慶爆撃受害者、長谷川テル縁の地を訪ねて～

日時: 6月16日(日)10:00～12:00

お話: 西田千津さん(奈良・長谷川テル顕彰の会推進委員)

会場: 京都府連事務所 + オンライン

※参加費無料・事前申込要

今回は、コロナ明け後、まだまだ往来には多少の困難のある中国・重慶を訪問された西田さんにお話を伺います。

重慶爆撃の受害者(ご家族)との交流、エスペランティストでもある長谷川テル縁の地・重慶の様子をお話いただきます。

みなさま、どうぞご参加ください。



解放碑



重慶名物・火鍋



長谷川テルと劉仁らの住居兼仕事場

(写真は西田さん提供)

★当日、会場参加の方1名に抽選の上、西田さんの重慶土産を差し上げます！

※参加ご希望の方は6月13日(木)までに、以下を明記してお申し込みください。

申し込み先: info@nichukyoto.gr.jp

☎ 075-256-2764

- ・お名前
- ・メールアドレス
- ・参加形態(会場参加 or Zoom 参加)